＜認知症対応型共同生活介護用＞

評 価 結 果 報 告 書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2570300430
法人名	医療法人　あいち診療会
事業所名	グループホーム　いろり庵
訪問調査日	平成　19　年　6　月　20　日
評価確定日	平成　19　年　7　月　9　日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ滋賀福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成19年7月9 日

【評価実施概要】

事業所番号	25703004302
法人名	あいち診療会
事業所名	グループホームいろり庵
所在地	滋賀県長浜市野瀬町743番地 （電　話）0749-76-8181

評価機関名	ニッポン･アクティブライフ･クラブ滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地　平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成19年6月20日	評価確定日	平成19年7月9日

【情報提供票より】　平成19年6月13日

（1）組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 7 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	7　人	常勤　6　人，非常勤　1　人，常勤換算　7

（2）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	1 階建て　1 階 ～　階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	60,000　円		その他の経費（月額）	実費　－　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	－
食材料費	朝食	350　円	昼食	450　円
	夕食	450　円	おやつ	150　円
	または1日当たり　－　円			

（4）利用者の概要（　平成19年6月13日

利用者人数		9 名	男性　1 名	女性	8 名
要介護1		－	名	要介護2	4　名
要介護3		3	名	要介護4	1　名
要介護5		1	名	要支援2	－　名
年齢	平均	91 歳	最低　85 歳	最高	96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	あざいリハビリテーションクルニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

農村地区の小学校横に建つ幼稚園舎を改装して開設されたグループホームで前庭には小学校のプールがあり、児童の元気な泳ぎと歓声が聞こえる。毎日、児童の登下校時には見守隊としての日課があり、児童も頻繁にホームへ訪問している。園舎の講堂（遊戯室）はそのまま残され研修室として使われている。そこでは毎週1回高齢者を対象とした筋トレーニング教室が開催され、地域の人々には楽しみとなり利用者との交換会ともなっている。理事長は重度の人を優先して入居して頂くこと及び利用者には終末までケアをさせていただくこと。が運営理念の柱とされている

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回の公表は2006年9月19日に行われているが、その中で契約書において利用者並びに家族の権利義務について明示されていなかったが速やかに改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 全職員が自己評価項目を全て評価した。全職員で構成するサービス向上委員会において19年3月から2回の会合を持ち、話合いをしてきた。それらにより自己評価の意義が確認がされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 運営推進会議は平成19年度は3月から2回開催されている。メンバーは利用者、利用者家族、地域代表、行政職員を交えて意見の吸収に務めている。またあいち診療会と共催で市民対象の認知症セミナーを行政後援で行うなど情報の発信に努力されている事は評価できる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） ホーム便りが発行されている。利用者家族が月1回は訪問する仕組みから家族との話し合いが行われ、利用者の生活状態や健康状態、金銭出納などの報告と意見要望などを聞き出している。さらには家族から意見や要望を出しやすい環境作りのために家族会の結成を望みたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） ホーム前の小学校の児童の登下校の見守り隊が利用者の日課であり、研修室が地域高齢者の筋トレーニング教室として毎週1回開放されるなどから地域の人々や小学生がホームへ訪問してくれるなど地域との連携は評価できる。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症老人にその生涯が終わるまでの安住の地を提供し認知症の老人が家族及び地域の人々良好な関係を持ち続けられるよう支援する」という理念が作られ,ホームの居間で家族・利用者・職員に見守られて息を引き取る事例が2件生まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理事長より理念の啓蒙と教育を行い。またケア会議の中でマネージャーから理念の具現化に対する事例の話題を提供するなどして理念の共有化を図っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎週火曜日にグループホーム内の研修室で筋トレーニング教室を行い地域に開放。小学生との交流、春祭り、秋祭り、地域のバザーの参加など地域とのつきあいは深い。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が全項目を自己評価し、サービス向上委員会で話し合いをする中で理解を深められた。又前年の外部評価の指摘と今回の自己評価結果から改善の話合いをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年度から2回開催して事業報告など行い、意見要望を聞くようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長浜市と連携し認知症セミナーを開催し地域に情報発信している。更に今後、長浜市と共催の高齢者ケア、口腔ケア、認知症の理解を得るセミナーが計画されている。		各種セミナーが更に発展するよう期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族訪問を義務つけ、毎日の医師の診断結果、毎日の生活ぶり、出納結果など報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族は頻繁に面会に来られその都度、意見要望を聞きだすよう努めている。	○	利用者の家族から不満や苦情が出しやすい基盤作りのためにも家族会を結成してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームの職員採用時に職場に馴染めるか、利用者と本人と相性が合うか等を確認する為に一週間程の試用期間を設けている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	床ずれついての研修や長浜市との連携の認知症セミナー年4回の出席や認知症研修会などに参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと職員の交代研修や管理者同士が2ヶ月に1回交流会を持つ事を通じて、学ぶべき処を持ち帰り活用するようにしている。更に愛知診療会と合同の介護事業者対象の研修会を昨年4回実施し、今年度も計画済み。		本年も研修会の継続発展を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームへ早く馴染めるよう、利用者にお試し期間2週間から一ケ月位設け、良ければそのまま入居されている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホーム内の菜園で共に野菜作りや日曜日ごとの夕食料理作りを共にするなど共に過ごす生活をしている。また入居前のなじみの場所で昔話や生活の様子を聞くなど教えてもらえる事が多い。		
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の入居時に生活歴の聞き取りや好き嫌い、意思表示を表出しにくい利用者には特に配慮しフェイスシートなども参考に職員全員が意向把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月々の見直しは最低三ヶ月に1回。介護度の申請が変わるときや、本人の状態変化時には必要によりケアマネジャーと利用者担当者を交えて見直しをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の観察から利用者担当がメインとなり状態変化時にはケア会議の中で検討し見直しをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の行きたい所やしたいことを聞き入れ家族やかかりつけ医とも相談しながら墓参りや自宅の仏壇参りなどの要望に応えてきた。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム提携のリハビリステーションクリニックから月～日曜日まで当直医が毎日の往診が日課となっている。初期症状の内に適切な対応が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営理念に基づきグループホームで終末までケアをすることに利用者及び家族と話し合っている。提携医と家族、利用者と話し合いの中、利用者や家族に見守られながらの終末を迎えた利用者は2名ある。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム便りの利用者の顔写真にも同意を得るなどの配慮をしている。、管理者と施設長はプライバシー研修を受けスタッフ会議で報告し職員の理解を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の帰宅要望や外出要望には応えている。毎日は食材の盛り付け、配膳、後片付けなどは能力に応じて参画。ホームの前には菜園があり野菜の植え付けや雑草取りなどにも参画。ホーム玄関で児童の登校の見守り隊も楽しみとなっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による献立であるが利用者の希望を聞き応えてもらっている。希望によりグラタンやバーベキュー、すき焼きなどがメニューとなり利用者に喜ばれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を基本として幅広い時間帯を設けている。利用者は入浴を嫌がるときもあるが気分転換をしたりすると入浴されている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	大正琴をされる方、本を読んだり、ゲームをされる方、各々自由に楽しみごとで過ごされている。ホーム内の菜園もなすびやとうもろこしを植えるなどしている。また多賀神社や名古屋の水族館見学などのレクレーションも楽しみである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホームの場所は豪雪地帯であり。暮らしやすい季節には進んで外の空気に触れるように配慮している。ホーム前の小学校の児童登下校時に校門前まで出かけ、見守り挨拶をしているている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は普段は掛けない。防犯上夜間は掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署と合同訓練をしている。		冬季の積雪対策についても地域、行政、消防などと突っ込んだ対応策を共有することの仮称積雪時の対策会議なども検討してほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立をつくり、利用者にあった水分補給を管理チェック表に記録し、服用薬の水量も配慮している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に隣接した居間にはソファと共に、いろり風のテーブルと8畳ほどの和室も併設されゆったりした広さがある。居間には大きな窓があり、遠景には山並み、近くには小学校,ホーム前庭には小学校のプールや,菜園が見える。学校やプールから児童の顔や歓声は心和む雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が宿泊できる部屋を準備。居室は床暖房。各居室は天井、壁は洋風、和風にも違和感のない素材と風合いを持つ、床はフローリング張りであるが組み立てれば畳が綺麗に収まるよう設計されており利用者の好みに対応できる工夫がされている。		利用者の思い出の写真や趣味の作品などを居室に貼り付けなどの生活を感じる演出を支援してほしい。